

YF- 3A 真新震心神の運用について

国防会議資料



オーレリア連邦共和国国防省 戦術運用研究所 航空戦力運用対策室

● YF-3A 真新震心神の概要

YF-3A真新震心神(以下「当機」)とは我が国空軍が昨年、TECKN工業より納入した最新鋭の第5世代戦闘機である。

高いステルス性、3次元推力偏向ノズルと

軽量化された機体による優れた空力特性、

戦闘をサポートする高機能ソフトウェアなど、これまでの戦闘機の一步上を行く新時代の戦闘機である。



● 主要装備

現在のところ、当機の基本装備は以下のとおりである。

- ・機関砲2門 2000発
- ・国産格納型短距離空対空ミサイル 4発

なお、これらはウエポンベイの中に収納可能な装備であって今後の改修によってはより豊富な火器を搭載可能になる可能性もある。

● 性能評価

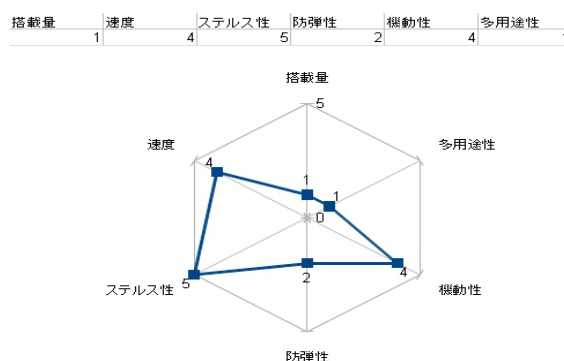
- ・搭載量 評価:1

当機はステルス性を追求した結果、搭載量是他機種に比べ極度に少ない。

これは非常に深刻な問題である。

- ・速度 評価:4

当機の巡航速度は700kt以上であり、運用するうえで要求される性能を十分に満たしていると思われる。また、当機は低速安定性にも優れており、垂直着陸、通称「水面に浮かぶ小枝に着地するようなやわらかくシャープな接地」も可能とする。これは有事の際の局地的な運用に戦略的に有用である。また、エンジン出力にも余裕があるため失速した状態から回復できる確率が高い。



- ・ステルス性 評価:5

当機のステルス性は非常に優れており、性能試験でレーダー断面積は小鳥程度だと確認された。

- ・防弾性 評価:2

当機は軽量な機体を実現するため、機体を包む装甲は薄くなっている。敵機の機銃を3発被弾すると戦闘の継続が不可能になる可能性が高いと試算が出た。そのため、操縦者を保護する機能が搭載されている。

- ・機動性 評価:4

当機は3次元推力偏向ノズルの採用により、通常の戦闘機には不可能な機動、特に失速機動は容易に可能である。しかし、失速機動は常にストールの危険が伴うため、まだ課題は残る。

- ・多用途性 評価:1

当機に搭載可能な火器は上記通りで、対空戦闘のみに特化している。そのためF-15サイレントイーグルと同時運用することで対地攻撃能力をカバーしている。

●現場の評価

試験飛行の段階から現在までに挙がっている当機に関する評価は以下の通りである。

- ・低速域での機の安定性が非常に高い。
- ・飛行特性が非常に優れており、他機種では困難な機動も可能。
- ・失速機動をしすぎるあまり機の身動きがとれなくなることがある。(これに関しては練度も影響している)
- ・ステルス性が極めて高く、敵ミサイルのロックオンを十分に防いでいる。
- ・酸素マスクから操縦者好みの香りが出てきて精神的安定を保てる
- ・ステルス性を優先したため旋回半径が他機種に比べ大きくなっておりミサイルを使用しない空戦では不利。(格闘戦ではF-2のほうが有利)
- ・その飛行特性故に一人前に操縦できるようになるパイロット訓練に時間と手間がかかる。

●これからの問題点とその改善

これらより、今後当機が直面するであろう問題を以下に挙げると

- ・パイロットの育成の時間と手間
- ・装備可能武器の少なさ
- ・大きな旋回半径

などが挙げられる。

まずパイロットの育成については教官の増員、シミュレーター増設などで当分は対処可能である。

装備可能武器については今後の改修で増やしていき、対地攻撃能力に関してはF-15サイレントイーグルの運用により解決している。

旋回半径についても装備可能武器と同様、TECKN工業との協議・検討によりある程度の改善の可能性はある。

* 機体モデルの原作はSAP1より。
ACPの心神は許可申請メールを送信した上で公開しています。